事例報告

発達障害児に対する「鼻をかむ」「排便後の拭き取り」の２つの生活動作の獲得を目指した支援 ― 電子メールを介した母親支援の一例 ―

武田　朋恵[1)]　　中島そのみ[2)]

要旨：
発達障害を有する５歳男児とその母親を対象として，母親の家庭での取り組みを電子メールにて支援した．カナダ作業遂行測定とゴール達成スケーリングを用いて作業課題の整理と目標達成までの段階付けを母親と作業療法士が協働で実施した．「鼻をかむ」「排便後の拭き取り」の２つの作業課題に対して，母親が主体的に取り組み作業療法士はその過程を共有するとともに継続をサポートする返信をした．母親は本児の行動に合わせて介入方法を修正し目標に到達した．母親の取り組みを支援する方法として，作業療法士が目標の到達に向けた段取りを提示すると同時に，数値や文字を用いて共に目指す方向を確認することは有効であると考える．

キーワード：生活動作，発達障害，母親支援

はじめに

子育て支援における作業療法士の役割は，家族の要望を聞き取り，対象児の作業遂行を観察評価したのちに支援プランを立て，日常生活に取り入れられるようにすることである[1)]．支援プランを継続してもらうためには，家庭の実情に合わせた内容，且つ，家族が主体的に取り組める方法にする必要がある．岡村ら[2)]は，支援者が介入案を提示するのではなく，保護者に自らの行動や子どもとの相互作用に関する気づきを促すことで，保護者の主体性を高めることができるとし，保護者の取り組み自体を支援することの重要性を指摘している．本事例報告では，５歳男児とその母親を対象として，家庭における生活動作の獲得を目指した支援を報告する．優先して取り組む作業課題の整理と目標達成までの段階付けを母親と作業療法士が協働で実施した．一事例での実践から母親の取り組みを支援することの有効性を明らかにする．

なお，新たな社会環境に合わせて，従来の対面提供型からの家族支援方法の方向転換が求められている[3)]．世界作業療法士連盟[4)]は，対面が不可能または現実的ではない場合の作業療法サービスとして，遠隔医療は効果的な提供モデルであるとし，リアルタイムでのサービスの他，写真や電子メールなどのデータ送信も含むとしている．今回，我々は電子メール（以下，メール）を介し，母親

１）有限会社どれみ　永山こども発達支援センターぽの
２）札幌医科大学保健医療学部作業療法学科

とは対面せずに家庭での取り組みを支援した．

本報告についての趣旨を母親に文書にて説明し，署名による同意を得た．また，投稿について施設長の承認を得た．

事　例

事例は５歳男児，父母と姉の４人家族で，共働き家庭である．１歳時に喃語があったが，１歳４か月に歩き始めた後に発語が消失し，親とのコミュニケーションが難しくなった．２歳時にＡ医療機関を受診し，作業療法と言語聴覚療法を開始した．３歳３か月時より，保育園の通園と並行して筆頭著者が勤務するＢ児童発達支援事業所（以下，Ｂ事業所）にて週２回の集団療育を利用し，そのうちの週１回は筆頭著者が関わる集団運動支援に参加し，運動遊びや制作遊びを行っている．５歳０か月時にＡ医療機関で実施した新版Ｋ式発達検査は，全領域48，姿勢・運動61，認知・適応48，言語・社会48であり，PARS－TRは，幼児期現在得点16点で，自閉スペクトラム症が示唆された．５歳２か月時に言語発達遅滞と発達性協調運動症の診断を受けた．

メールによる母親支援を実施するに至った経緯

メールによる支援を選択した理由は，共働き家庭でありリアルタイムでの伝達は時間帯の制約があること，新型コロナウイルス感染防止の観点から対面での伝達が困難なためである．Ｂ事業所の利用は保護者が同伴しない形態をとっており，家庭への送迎を行っている．また，メールによる保護者との伝達手段が確立されており，本児の母親もＢ事業所の職員あてに家庭での過ごし方やイベントに参加した様子などを伝えていた．筆頭著者は母親の文章を通して，母親が本児の行動を尊重して様々な課題に対応していることを知った．家庭での取り組みを支援するために母親へメールを利用した情報交換の実施を提案したところ，快諾が得られた．介入期間は５歳７か月から就学に伴うＢ事業所の通所終了となる６歳２か月までの７か月間とした．

初回評価（支援開始から２か月間）

本児に対する願いや獲得してほしい作業を母親に確認したところ，生活場面，学習面，運動面など15項目であった．そこで，カナダ作業遂行測定（以下，COPM）[5]の重要度評定を母親に依頼し，重要度が９，または10と高く評定された２項目を作業課題として取り組むことを母親に提案し，同意を得た．決定した２項目は「鼻をかめるようになってほしい．花粉症の症状があり，鼻をこすりすぎて鼻血を出すことがある．風邪をひいた時にかなり苦しい思いをしている」，「排便後の拭き取りが上手になってほしい．ちょっとでもパンツが汚れると大騒ぎする」であった．次に，母親の願いの文章をもとに達成可能な目標の文章にするよう母親に依頼し，「鼻をかむ時に鼻から息を出せる」，「排便後の拭き取りの時に使用したトイレットペーパーに汚れがついていないかを確認する」との返信を得た．筆頭著者は母親の考えた目標が現実的で実現可能と判断し，本児の作業課題の目標が決定した．決定した目標に対して，COPMの遂行度評定と満足度評定を母親に依頼し，返信を得た（表１）．S－M社会生活能力検査第３版（以下，S－M検査）[6]にて，本児の身辺自立の発達を捉えることとし，母親に記入を依頼した．検査用紙は本児の利用日に持ち物と一緒に持ち帰ってもらった．５歳10か月時の全検査社会生活年齢は３歳２か月，社会生活指数は54であった．領域別では，「作業」は４歳４か月で最も高く，次いで「身辺自立」が３歳５か月，そのほかは２歳後半から３歳であった．身辺自立の領域では洗体，洗顔，歯磨きはできるが，大便の始末はできなかった．

作業療法方針

ゴール達成スケーリング（以下，GAS）[7]を用いて達成までの段階づけを提案した．また，母親

表１　カナダ作業遂行測定

		初回評価		再評価	
母親が本児に獲得してほしい作業	重要度	遂行度	満足度	遂行度	満足度
鼻をかむ時に鼻から息を出せる	10	1	2	3	4
排便後の拭き取りの時に使用したトイレットペーパーに汚れがついていないかを確認する	9	6	6	7	6

が取り組んだ内容とそれに対する本児の行動を確認するメールを週１回程度送り，母親の取り組み状況を共有するとともに，母親の取り組みに対する肯定的な返信を行い，協働的関係を築くようにした.

ゴール達成スケーリング

「鼻をかむ時に鼻から息を出せる」,「排便後の拭き取りの時に使用したトイレットペーパーに汚れがついていないかを確認する」の２項目について，スコアが高くなるのに従い，母親による援助量が減少するように設定した（表２）．各項目の指標は筆頭著者が作成し，母親の同意を得た.

経　過（支援開始４～７か月目）

１．鼻をかむことについて

初回のCOPM実施時は,「ティシュを鼻につけるまではできるが，そのあとのフーンッしてという声かけは理解しておらず嫌がって吸ってしまう．鼻がつまっていない時にもゲーム感覚で練習してみようと思う」とのことであった．筆頭著者からは「お母さんが無意識で行っている動作を意識してみると，どんな練習をするとよいかが分かると思います」と伝えた．家庭での取り組みを開始し１か月目（支援開始４か月目）に「時々鼻から息を出せる」とのことであり，その後「鼻をかめた．本人も意図せずできたようで，すっきりしたみたいだ．しかし，その後はうまくいかなかった」と連絡があった．取り組み開始２カ月目（支援開始５か月目）に「母の前に来て『鼻をかめましたよ』とみせてくれた．勢いが足りなかったので，すっきり出た様子はなかったが，鼻から息をフーンッと出すことができた」との連絡があった．筆頭著者からは「鼻から息を出すという目標に到達しましたね」という返信と同時に工夫点をたずねたところ,「寒い場所から帰ってきた時など，軽い鼻水の時に練習している．口を閉じることを伝えている．実際に母の様子を見せて鼻から息を出すのを母の鼻に手を当てて感じさせた．出来ても出来なくても鼻をかもうとしたことを褒めている.本児なりに理解しているようで練習している」との返信があった.

２．排便後の拭き取りについて

初回のCOPM実施時は,「お尻にトイレットペーパーをあてることはできる」とのことであった．家庭での取り組みを開始し１カ月目（支援開始４か月目）に「拭き取りができるようになってきた」と連絡があった．筆頭著者からは「見えない位置にトイレットペーパーをあてるためには，自分の体の形を理解している必要があるので難しいと思いますが，工夫していることを教えてください」と返信した．取り組み開始３カ月目（支援開始６か月目）には「うんちが出たら呼んでもらい，まず本児に拭かせている．肛門の位置の理解は難しいようで，全然違うところを拭いていることが多い．肛門を押すようにして位置を教えている．ゴシゴシと声かけすると前後に腕を大きく動かして大便をお尻全体に伸ばしてしまうので，押してキュッキュと伝えている．入浴時にお尻を自分で洗わせて，肛門の位置に手を添えて教えている」と家庭での取り組みの様子を知らせてくれた．そこで，筆頭著者は母親が様々な工夫をしていることや，それらを継続していることが文章から伝わってきたと返信した．取り組み開始４カ月目(支援開始７か月目)には,「トイレットペーパー

表２　ゴール達成スケーリング

スコア		目標：鼻をかむ時に鼻から息を出せる	目標：排便後の拭き取りの時に使用したトイレットペーパーに汚れがついていないかを確認する
2	かなり高いレベルの目標	母の見守りがなくても自分でティシュを準備して，鼻をかむことができる	母の見守りがなくても，自分で排便の始末ができる
1	少し高いレベルの目標	母の見守りのもと，自分で鼻をティシュでおさえて，口を閉じて鼻から息を出せる	母の見守りのもと，自分で排便の始末ができる
0	設定した目標	母に手伝ってもらいながら，口を閉じて鼻から息を出せる	母の見守りのもと，拭き取り後に使用したトイレットペーパーに汚れがついていないか自分で確認する
−1	少し低いレベルの目標	母に手伝ってもらいながら，口と鼻から息を出す	母の見守りのもと，拭き取り動作を行い，仕上げは母が行う
−2	現在の状態	母に手伝ってもらい，鼻から息を出すよう母が声かけするが，口から息を出す	母の見守りのもと，お尻にトイレットペーパーを当てる動作を行い，仕上げは母が行う
初回評価		−2	−2
再評価		0	0

を当てる位置はわかるようになってきたが，指が汚れることを恐れて，力を入れたがらない．ほんの少し触る程度にしか拭かず，大量のトイレットペーパーを使用する．手を添えて力の入れ加減を教えているが，本児が指を汚したくない気持ちが勝っているようだ」と本児の状況と母親の試行錯誤の様子を伝えてくれた．

再評価（支援開始から７か月目）

家庭での取り組みを開始し４カ月目（支援開始から７か月目）に再評価を行った．COPMの得点は２項目ともわずかに向上した（表１）．GASでは２項目ともにスコア０であり設定した目標に到達した．S−M検査では６歳２か月時の全検査社会生活年齢は４歳２か月，社会生活指数は68であり，社会生活指数が改善した．領域別では，「作業」は５歳２か月で最も高く，次いで「身辺自立」が５歳１か月，そのほかは３歳台となり，すべての領域が向上した．身辺自立の領域では大便の始末ができるようになった．母親は「少しずつレベルアップしていると思う．（筆頭著者である）作業療法士と確認できることで成長を感じられ，次への励みになる」と知らせてくれた．

考　察

「鼻をかむ」「排便後の拭き取り」の２つの作業課題に対して，筆頭著者はメールを介して母親と協働的関わりを保ち，本児に対する間接的な介入を進めた．母親による主体的な取り組みがもたらした成果と作業療法士である筆頭著者が担った役割を考察する．

１．母親の主体的な取り組み

鼻をかむことについては，母親は実際に自分で行う様子を本児に見せたり，母親の鼻に手を当てさせて鼻から息がでることを確認させたりしていた．排便後の拭き取りについては，母親は入浴時に本児にお尻を自分で洗わせたり，肛門の位置を教えたりしていた．生活動作を獲得するためには，力のコントロールや身体イメージを高める必要が

ある[8]. 実際の生活場面での繰り返し練習により，本児の身体イメージが育まれていったのではないかと考える．本児の行動が変化し，それに伴い母親の介入方法が修正されていた．Ｂ事業所では，本児に対して特別に練習させるような関わりはしておらず，他児と同様の補助をしていた．このように母親の取り組みが順調に進んだ要因は，母親自身が本児に獲得してほしいと望んでいる生活動作に焦点をあてたこと，母親自身が取り組み方を考え，本児の行動変化をとらえていたことによると考える．

２．作業療法士が担った役割

メールによる支援は非対面，非リアルタイムであり，情緒的交流を伴いにくい方法であるため，筆頭著者は家庭での取り組み状況に合わせ，母親の思考の先回りをしないよう心がけた．本児に獲得してほしい作業を聞き取り，優先して取り組む課題を決め，本児の遂行度を確認する一連の流れを母親と一緒に行ったことで，母親の思考を整理することができたと考える．上村ら[9]は，母親と共に行動するような支援は母親を情緒的に支える支援よりも有効であるとしており，今回は文章のみでの支援ではあったが，本児の成長を共有することができたと考える．筆頭著者からのメールは週１回程度であったが，この頻度が母親を急かすことなく，母親自身の行動のモニタリングとして作用していた可能性がある．

Ｂ事業所で行った集団療育では，生活動作の土台となるような力のコントロールや手指操作性の向上を目的とした運動遊びを行っており，それらが間接的な効果をもたらしている可能性はある．しかし，どの程度影響したのかについては，根拠となるような指標を測定できていないため，今後の課題となる．

今回の我々の実践は一事例の成果であり，一般化はできないが，母親の取り組みを支援する方法として，作業療法士と母親が協働で課題の整理を行い，作業療法士が目標の到達に向けた段取りを提示すると同時に，数値や文字を用いて共に目指す方向を確認することは有効であると考える．

引用文献

１）本多ふく代：障害児の保護者への子育て支援．上杉雅之・監修，イラストでわかる　発達障害の作業療法．医歯薬出版，東京，2016.

２）岡村章司：特別支援学校における自閉症児に対する保護者支援－母親の主体性を促す支援方略の検討－．特殊教育学研究53（１）：35-45，2015.

３）石田史織，高橋知音：最新のトピックス Post COVID-19　新たな社会様式に対応した発達障害児の家族支援．信州医誌70（２）：119-122，2022.

４）World Federation of Occupational Therapists：Occupational Therapy and Telehealth.2021. https://www.wfot.org/resources/occupational-therapy-and-telehealth (accessed 2022-05-17).

５）吉川ひろみ：作業療法がわかるCOPM・AMPSスターティングガイド．医学書院, 東京，2008.

６）上野一彦，名越斉子，旭出学園教育研究所：S-M社会生活能力検査　第３版手引き．日本文化科学社，東京，2016.

７）原田千佳子：ゴール達成スケーリング（GAS）．EBOT時代の評価法25　OTジャーナル38（7）：591-595，2004.

８）鴨下賢一（編），立石加奈子，中島そのみ：苦手が「できる」にかわる！　発達が気になる子への生活動作の教え方．中央法規, 東京，2013.

９）上村恵津子，石隈利紀：教師からのサポートの種類とそれに対する母親のとらえ方の関係－特別な教育ニーズを持つ子どもの母親に焦点をあてて－．教育心理学研究48：284-293，2000.

Support for children with developmental disabilities to facilitate of daily activities of “nose blowing” and "wiping clean after bowel movements” — An example of a mother support via email —

Tomoe Takeda [1)]　　Sonomi Nakajima [2)]

1) Tomoe Takeda, Limited Liability Company Doremi , Nagayama Child Development Support Center Pono
2) Sonomi Nakajima, Department of Occupational Therapy , School of Health Sciences , Sapporo Medical University

Abstract

Email was used to support a mother and her 5-year-old boy with developmental disorders in their home efforts. The mother and an occupational therapist worked together to organize work tasks and create stages for the achievement of goals using the Canadian Occupational Performance Measure (COPM) and Goal Attainment Scaling (GAS). The mother took the lead in the tasks of “nose blowing” and “skillfully wiping clean after bowel movements.” The occupational therapist returned the mother’s emails, sharing with her the processes related to these practices, and emailed messages that affirmed her efforts. The mother modified her intervention methods according to the child's behavior, and the goals were achieved. As a method to support the mother's efforts, we believe that it is effective for the occupational therapist to collaborate with the mother in organizing and visualizing necessary tasks and procedures.

Key words : daily activities , developmental disorders , mother support